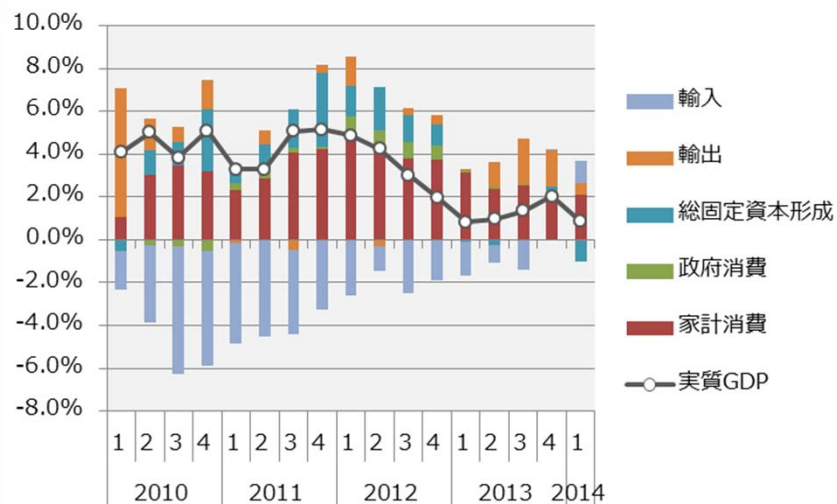


ロシア：2014年1-3月期GDP

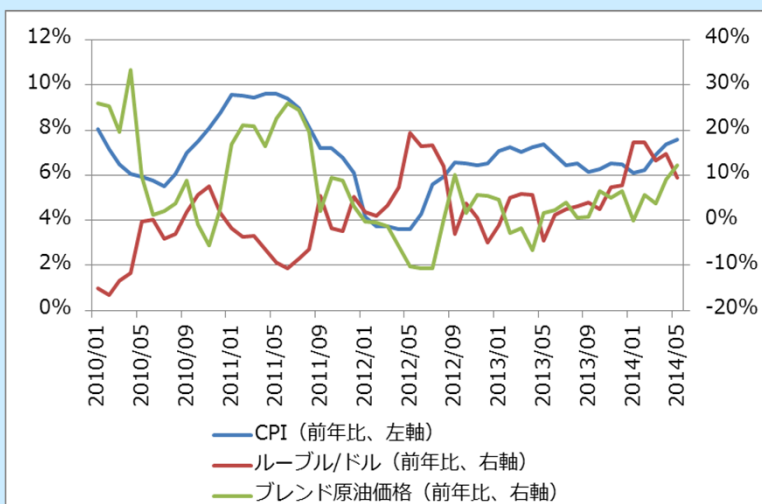
MRI Daily Economic Points
July 11, 2014

実質GDPの推移



資料: CEIC

CPI、為替および原油価格の推移



資料: CEIC

評価ポイント

今回の結果

- ロシア連邦国家統計庁によれば、2014年1-3月期の実質GDPは前年比+0.9%と前期同+2.0%より伸びが鈍化。季節調整済み実質GDPは、前期比▲0.3%と5四半期ぶりにマイナスとなった。
- 需要項目別GDPをみると、家計消費は、為替安・インフレの影響もあり、前年比+3.7%と前期(13年10-12月期、同+4.1%)から伸びがやや低下。
- 総固定資本形成は、ウクライナ情勢の悪化を背景に、資金流出の動きが強まったこともあり、前年比▲7.0%と、前期(13年10-12月期、同+0.5%)から大幅なマイナスに転じた。
- 外需は、輸出がEU向けの低迷により、前年比+1.6%と、前期(13年10-12月期、同+5.6%)から伸びが低下。輸入は内需減速の影響もあり、前年比▲4.5%と前期(同▲0.1%)から一段と減少幅が拡大した。
- 産業別GDPをみると、農林水産業が前年比▲0.8%とマイナスに転じたほか、鉱工業は、前年比+1.2%と前期(13年10-12月期、同+2.0%)より伸びが鈍化。堅調な内需を背景にこれまでロシア経済を牽引してきたサービス業も、前年比+1.2%と前期(+2.3%)より伸びが低下。

今後の見通し

- 2014年3月以降に発動された米国・EUによる対ロシア制裁は、その内容が政府関係者の資産凍結・渡航制限と米国によるロシア向けハイテク製品の輸出規制であるため、現時点で経済面での大きな混乱は見られない。しかし、ウクライナ情勢悪化の長期化とロシアに対する国際的な信頼感の低下を背景に、①4-6月期も引き続きロシアからの資金流出の動きやロシア向け直接投資の鈍化傾向がみられ、さらに②輸出の5割超、輸入の4割超を占める対EU貿易の低迷がロシア経済の足かせとなっている。5月にはEBRD(欧州復興開発銀行)が、2014年のロシアの実質GDP見通しを▲2.5%ポイント引き下げゼロ成長を予測しており、ロシア経済は当面低調な推移が予想される。
- ロシア中央銀行は、通貨安と輸入インフレ圧力への対応として、4月に政策金利を7%から7.5%に引き上げた。6月CPIは前年比+7.5%と上昇しており、今後も既往の通貨安と原油価格上昇を背景とする物価上昇や海外からの直接投資の手控えから、景気低迷が続くと見込まれる。